



学習課題とめあての違いについて…

実は、1学期に本校で行われた教科等別研究会（理科）の研究協議の中で、参会者から次のような質問がありました。授業の中で「めあて」と「課題」を両方提示しているが、それは必要なのだろうか。という質問でした。まず、この授業では「めあて」と「学習課題」が区別されて両方提示されていたということです。そして、県が提唱している授業づくり基礎基本3か条では「本時の目標や学習課題を明確に示す」となっています。県も目標（めあて）と学習課題を区別して示されているわけです。

では、めあてと課題は何が違うのでしょうか？めあてはこれまでも何回も説明してきた通り本時の Goal を示したものになります。そこには、学習評価が含まれることで明確な Goal につながっていきます。

一方、学習課題とは何なのか？課題とは生徒に対する「問い」だといえます。簡単に言うと数学でいえば例題の問題も課題といえるでしょう。では、今回の研究授業で提示された課題はというと「シラスやチリメンに入っている生物はすべて魚類なのか」でした。これは、生徒に対する問いになっていますね。しかもこの問いは、時には1時間では解決できず、数時間を使って解決に導かれるものになる場合もあります。このように、課題とは数時間を使って（1時間でもかまいませんが）解決を求めていく生徒への問いであるということです。この場合、よく言われるのが問題解決の授業展開である場合、課題設定は「～だろうか。」という文尾で終わることが望ましいと言われています。よく言われるのは理科や社会は問題解決型の教科であると言われています。例えば、先ほどの課題も「シラスやチリメンに入っている生物はすべて魚類だろうか」という表現になります。そうすると、探究型の授業展開につなげていけると言うことです。（「なのか。」でもかまわないと思うのですが、一般的な定型文的表現としてです。）

結論、今回の研究授業では、課題として「シラスやチリメンに入っている生物はすべて魚類なのか」で、めあてとして「海の中の生物を色々な見方で分け、発表しよう」と設定され、課題は数時間かけた「問い」、めあては本時の Goal として分けられて提示されていたということです。この方が、生徒にとっては数時間の見通しと本時の見通しの両方が明確になるので、授業に臨みやすくなるということです。

県が示している表現では「目標や学習課題を」となっているので、どちらかを示せばいいことにはなりますが、基本は1時間の Goal を示す目標（めあて）を授業の冒頭で必ず示すことが、まずは大事なことになってきます。時には課題自体が1時間完結で目標を含むこともあるので、その場合は課題だけの提示でいいかと思いますが、授業の展開に沿って、必要な目標や学習課題を提示してもらえたらと思います。